

ものづくりに関心を

親子体験教室に70組

ポリテクセンター長崎

ポリテクセンター長崎（諫早市小船越町、竹内一茂所長）は2日、『親子ものづくり体験教室』を開催。午前の部、午後の部合わせて70組近くが参加し、職業訓練校の実践的な環境の下、ものづくりを学んだ。

ものづくりの楽しさと、ものづくりを支える技能の大切さを伝えるために、小学生とその保護者を対象に、全国の職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）で毎年行っているもの。長崎では▽

文房具整理箱▽ステンレス製小物入れ▽アクリルキーホルダー&ネームプレート▽スノードーム▽光る剣―をつくる体験コースを行っていた。

開講式で竹内所長は、ものづくりの職業訓練などを行うポリテクセンターについて説明した上で、県内に多数のものづくりの企業があることに触れ「ものづくりは、みんなの生活を支える大切な仕事。この機会に『長崎のものづくり』について調べてみてくださ

い」と語り掛けた。そして、今回の体験教室で、楽しく取り組んで、子ども達の「ひらめき」や「工夫する力」が育つことを願った。

参加者はその後、テクノインストラクター（職業訓練指導員）の指導を受けながら、各実習場などでもものづくりを体験。このうち『光る剣』の教室では、まずLEDの特徴や発光の原理などを学んだ上で、3色（赤・緑・青）のLEDランプと紙コップ、トレーシングペーパーを使って、発光の原理を実験。引き続き、給油ポンプとカラーセロファン、小型LED懐中電灯を使って光る剣を組み上げた。

工作を終えた子どもたちは、本紙の取材に

「光る剣」づくりの様子



対し口々に「楽しかった」と応え、光の三原色を組み合わせてさまざまな色を創り出し、最後には白色に光る実験には「不思議」と話してくれた。保護者も「身近にあるものから不思議を感じ、ものづくりに関心を持つてほしい」と教室での体験が生かされることを期待した。